【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和７年度学校評価　計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立第五中学校

1　前年度 評価結果の概要	・重点取り組み内容の評価項目である「学力の向上」、「心の教育」、「健康・体づくり」、「業務改善・教職員の働き方改革の推進」、「キャリア教育」、「特別活動の充実」について、昨年度の総合評価を基にそれぞれ、職員は成果指標を設定し、思識をもって具体的取り組みをすることができた。結果として、多くの個別の取組内容は、職員、生徒、保護者のアンケート等からおおむね良い結果が得られた。しかしながら、数値目標にあと一歩届かなかった項目があったり、さらに高い成果指標を設定できそうな項目があったりするなど、今後の取り組みにおいて本評価を活用しPDCAサイクルを回していくことが重要である。 ・「学力の向上」については、全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査において、全ての教科で対県比が低迷しており、今後も、より質の高い学びを実現していくため指導方法の研究や改善を進めていく必要がある。 ・「いじめの対応」について、本校では職員の研修や実践を重ねており、解決や早期発見の成果が徐々に表れているが、生徒の学校の取り組みに対する肯定的な回答は昨年度から横ばいの約75%とやや低かった。教育相談の面でも肯定的な回答は昨年度からやや減少して約80%であった。いづれにしても個別対応がほとんどなので生徒や保護者からはなかなか見えにくいが来年度さらに生徒の安心につながるよう研鑽を重ね実践していく必要がある。
2　学校教育目標	**学校教育目標：持続可能な未来の創り手として、たくましく、心豊かに学び続ける生徒の育成** **キーワード　：「行動」「協働」「感動」** **校　　訓：みなぎる力、輝く希望、あふるる光**
3　本年度の重点目標	Ⅰ　知：確かな学力の育成と個に応じた指導の充実　⇒①教師の授業力の向上　②特別支援教育の充実 Ⅱ　徳：豊かな人間性の育成と社会規範の醸成　⇒①開発的生徒指導の推進　②キャリア教育の推進　③生徒会活動の活性化　④人権・同和教育の充実　⑤道徳の授業を核とする道徳教育の充実 Ⅲ　体：健康な心と体の育成　⇒①健康教育・安全教育の充実　②教育相談等の校内支援体制の確立 Ⅳ　校務分担と協働による「働き方改革」の推進　⇒①業務の効率化を図り、生徒と関わる時間の増加促進　②部活動ガイドラインに沿った部活動指導の推進

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	○「授業内の小テストや演習問題などを行うことで分かるようになった問題が増えた」に、対して、肯定的な回答をする生徒が90%以上。 ○「他者と交流をすることで、より深まった自分の考えを表現することができるようになった」に対して、肯定的な回答をする生徒が90%以上。	・全職員が校内研修や学年・教科部会を通して、指導方法を共有しながら、 ①授業の中で基礎知識を定着させる場面や自分の考えを表現する場面を設定した授業を実践する。 ②ラーニングマウンテンを活用した学習過程を作成し実施していく。		・		・		・	◎学力向上コーディネーター ◎研究主任 ○全職員
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校内外の行事や道徳の授業における活動を通して、思いやりや社会性豊かな心を身に付けることができたと感じる生徒の割合が85%以上。	・学校行事（体育大会、文化発表会など）や学年行事（修学旅行、子育てサロン、職場体験学習、松葉かきボランティアなど）において、その取り組みの過程で、支え、承認し、称賛することで、生徒のより自発的な活動を促す。 ・週に1回程度の「5Goトーク」を軸に年間を通してグループエンカウンターに取り組む。		・		・		・	◎道徳主任 ◎総合的な学習担当 ◎学年主任 ○各担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止、対応についての共通理解を図り、覚知時には組織的対応ができている」と回答した職員の割合が90%以上。 ○「学校は、いじめの問題について、未然防止や早期発見・対応に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合が80%以上。	・職員に対して年に数回のいじめの定義、いじめ防止・対応等についての研修を行う。また、生徒が報告をしやすくするために毎月生活アンケートを行う。 ・覚知時には、対策委員会を立ち上げ、管理職や各学年職員、保護者と連携しながら解決に努める。		・		・		・	◎生徒指導主事 ○全職員
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・佐賀県教育の合言葉「ほめるから、はじめる。はじまる。」の周知徹底。 ・生徒に出番と役割を与え、承認する、開発的な生徒指導を実践する。 ・教師自らが、夢を持ち、その実現に向けて努力する姿を見せる教育を実践する。		・		・		・	◎教頭 ○主幹教諭 ○学年主任 ○全職員
●健康・体つくり	❷「望ましい生活習慣の形成」	②生活習慣に関するアンケートを実施し、それぞれについて心掛けている生徒の割合が、早寝・早起き80%、朝ごはんを食べる95%、適度な運動90%以上。	・生徒集会・学級活動を通して生徒へ呼び掛け、アンケートを実施し、結果を生徒にフィードバックすることで、生徒のタイムマネジメント力を育む環境の充実を図る。 ・各種通信、面談を通して保護者との連携をしながら取組を進める。		・		・		・	◎養護教諭 ◎保健主事 ◎食育担当 ○体育主任
	○生徒の心を健康にする教育相談の推進	○教育相談等で「学校は相談しやすい環境を整え対応している」と回答した生徒の割合が85%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行い、支援方法の協議をする。 ・職員が生徒の変化に気づきやすいように、毎月1回の生活アンケートを行う。 ・SCやSSWの活用、外部機関などの周知と連絡調整を行う。 ・教育相談に関する研修や資料等の発信を行う。		・		・		・	◎教育相談担当 ○全職員
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間２０日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合30%以下を目標に掲げ職員に周知する。 ・年次休暇の取得推進を会議ごとに呼びかける。 ・部活動ガイドラインに則った休業日実施率100%を目標に掲げ職員に周知する。 ・会議のペーパーレス化を進めることで、資料の印刷、配布などの負担を軽減し効率化を図る。		・		・		・	◎教頭 ○主幹教諭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○生徒に対する教科や生活指導のあらゆる場面で特別支援教育を意識して指導を行うことができたと回答した教員90%以上。	・特別支援教育に関する研修会の実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を行う。		・		・		・	◎特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○キャリア教育	○キャリア・パスポートによる自己成長のための見通しと振り返りにより、生徒の志を高める	◎自分の将来について肯定的な考えを持つことができたと回答した生徒の割合が80%以上。 ○「SDGsの視点を意識して行動することができるようになった。」と回答する生徒の割合が80%以上。	・キャリアパスポートの記入による、見通し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の個性や長所に気付かせる。 ・特別活動及び各教科や総合的な学習の時間において、SDGsの視点と関連した内容を提示しながら指導に当たることで生徒にSDGsの視点を意識させるように努める。		・		・		・	◎総合的な学習担当 ◎特別活動担当 ◎学年主任
○特別活動の充実	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を生徒を中心に行い、あいさつの意識づけや、授業遅刻者を0（ゼロ）にする。 ○学校内外の生徒会活動における「生徒自身の企画立案による活動」を支援する。	・生徒会本部による「朝のあいさつ運動」、「昼休み終了の予鈴の2分前の呼び掛け」、「帰りの会の立腰の呼び掛け」を行う。 ・学校内外行事を生徒主体で行うように、生徒会に企画、運営させる。		・		・		・	◎生徒会担当 ○全職員

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志と誇りを高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・